

越前 三国 『けいせい仏の原』の舞台

(福井県坂井郡三国町)



三国町

び、上新町は商店街や遊郭を形成していました。当時三国の遊女は文学の素養が高
く、俳諧に秀句を残す遊女もいたそうです。現在でも古い町並みに当時を偲ぶこと

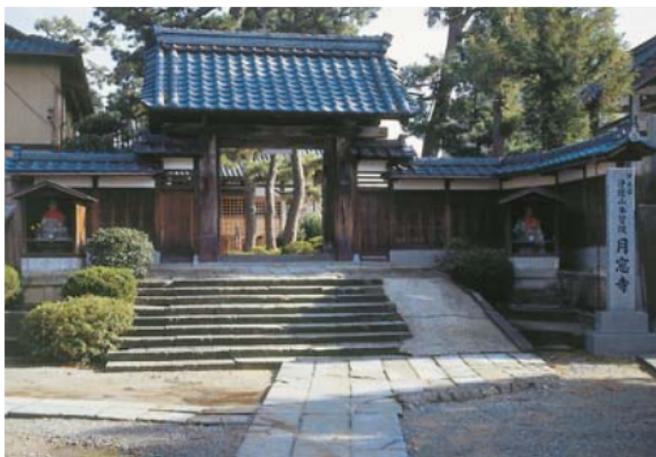
三国町は、近松の歌舞伎作品の中でも最高傑作のひとつ『けいせい仏の原』の舞台となったまちです。京都東山での月窓寺「沓はき如来」の開帳を取り入れた作品で、三国の月窓寺や遊郭が舞台になっています。

江戸時代、三国の市街は、下町と上新町に大きく分かれていました。下町は九頭竜川沿いや港橋付近に問屋の蔵が立ち並

ができますが、残念ながら月窓寺の宝物「杓はき如来」は残っていません。

三国湊は、古代より続いており、中世にさらに発達、中世後期には軍事的な重要度も高まりました。江戸時代には北前船きたまえぶねによる運送が盛んになり、交易圏の広がりや商品流通経済が活発になり、ますます賑うようになりました。

日本海の奇勝「東尋坊」とうじんぼう。見所は海食によって荒々しくカットされたさまざまな岩肌です。絶壁に日本海の荒波が打ち寄せるさまは実に豪快です。一年を通して観光客で賑い、特に夏には、海水浴で県内外から多くの人が訪れます。



月窓寺